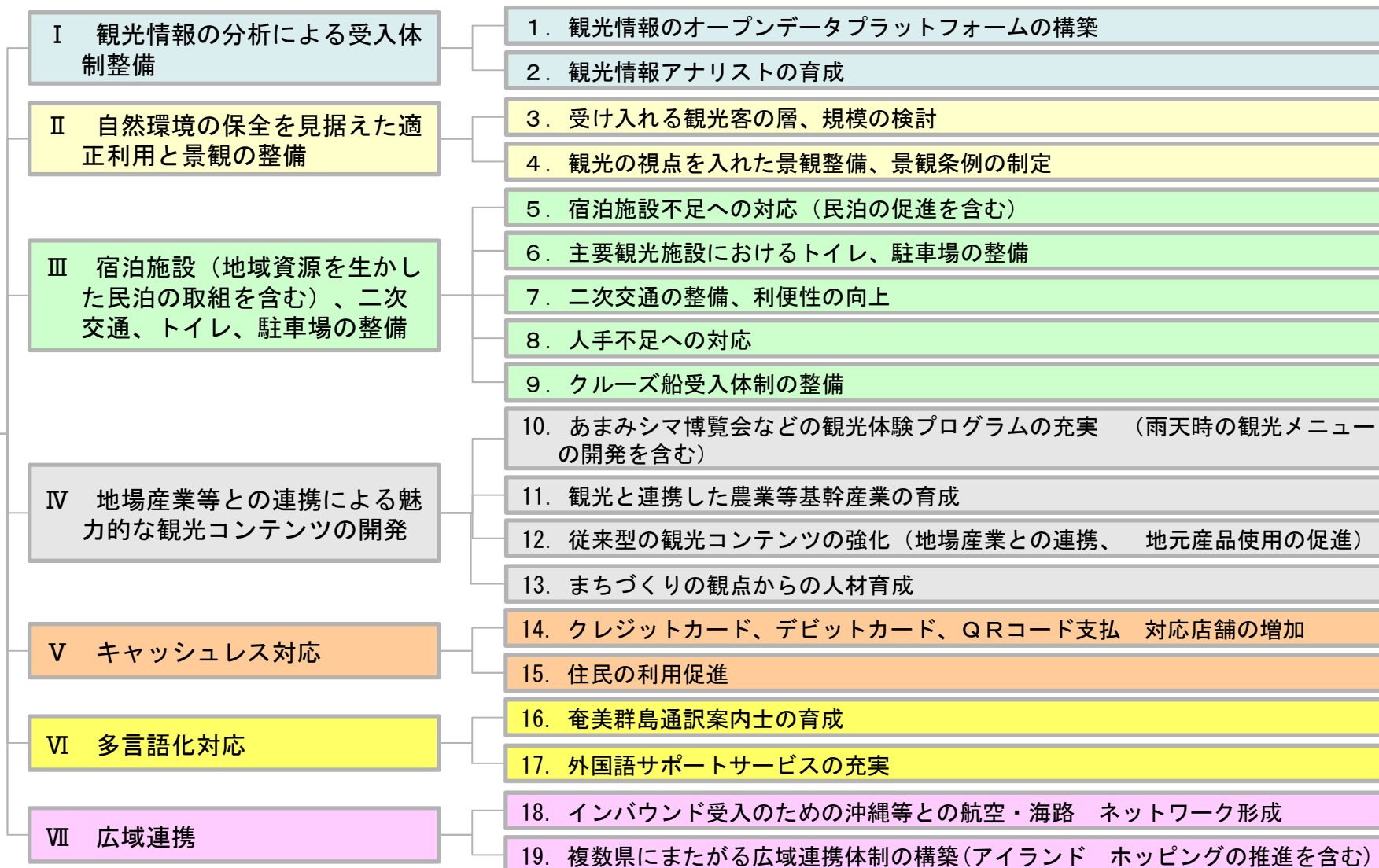


受入体制整備に関するロードマップ

- 受入体制整備WGにおいて検討を行い、今後5年間で取り組むべき事項を提言として取りまとめ。
- 各項目の実施体制や進捗評価のための指標について、更なる検討・調整を進める必要がある。

受入体制整備



ロードマップ案（受入体制整備）

地域：（奄美）群島、奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施				
						2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	それ以 降
1	観光情報の 分析による 受け入れ態 勢整備	1. 観光情報のオープンデータプラットフォームの構築								
		目 標	地域の観光資源の保全と観光客の満足度向上に向けた施策に用いる基本データの整備と共有化を図る。							
		今後5年間で到達すべき水準	個人情報に配慮した入域客、観光地の利用、宿泊者の属性データの取得及びオープンデータプラットフォームが利用できるようになる。							
		今後5年間にに向けた提言	データに基づいた観光施策が効果的に実施できる体制づくりに着手する。							
		2. 観光情報アナリストの育成								
		目 標	観光情報を分析し、次の効果的施策を提案できる人材を育成する。							
		今後5年間で到達すべき水準	観光情報のデータアナリストが各島（各DMO）に1名ずつ配置されている。							
		今後5年間にに向けた提言	データアナリストの育成講座を開講し、資格認定と民間事業者のデータ利用態勢づくりに着手する。							

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施				
						2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	それ以 降
3. 受け入れる観光客の層、規模の検討										
		目 標	自然環境の適正利用のため、奄美群島を訪れる観光客の動向・ニーズを把握し、今後の対策を検討する。							
		今後5年間で到達すべき水準	群島外から各島への観光入込客の数、移動や宿泊、行動に関するデータの整備を図るとともに、今後を見据えた課題を関係者間で共有し、対応策を取りまとめる。							
II	自然環境の 保全を見据 えた適正利 用と景観の 整備	現在の取組状況	群島	奄美群島観光物産協会	奄美群島観光振興基礎調査 ・観光客の動向把握、ニーズの把握、対策に向けた基礎データを収集する。	→				
			奄美大島	鹿児島県	金作原における利用ルールの試行 ・奄美大島利用適正化連絡会議において、平成30年2月に実証実験。平成31年2月より試行を開始している。	→				
				あまみ大島観光物産連盟	DMO事業（客室数、宿泊者数の実態把握等） ・奄美大島における観光業の実態と、それを踏まえた対策を立案する。	→				
			徳之島	鹿児島県	林道山クビリ線における利用ルールの運用 ・徳之島利用適正化連絡会議において、地元関係者間で検討を行い、利用ルールについて合意し、令和元年7月運用を開始した。	→				
		今後5年間に向けた提言	受入体制の構築に向けた取組として、奄美群島全体の観光マスタープランの策定や関係機関で構成する推進協議会の設立による連携体制を検討する。また、環境教育や環境保護の施策を実施するため持続的財源の確保や、観光客のマナー・ルールの徹底を図るため関係機関の役割分担を定めた取組指針の整備、入域時の環境教育受講にインセンティブを付与する仕組みについて検討する。							


番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施						
						2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	それ以 降		
II	自然環境の 保全を見据 えた適正利 用と景観の 整備	4. 観光の視点を入れた景観整備、景観条例の制定										
		目 標	世界自然遺産登録に向けて、奄美らしい景観の保全・形成を図るための仕組みを整備する。									
		今後5年間で到達すべき水準	各市町村において景観の保全・形成に関する施策（景観条例・景観計画の策定のほか、良好な景観を形成するための取組）が講じられることを目指す。									
		現在の取組状況	群島	鹿児島県	魅力ある観光地づくり事業 ・大和サンセットパーク（国直）整備（大和村） ・敬天愛人発祥の地周辺整備（和泊町） ・与論島散策拠点整備（与論町）等			→				
			奄美大島	島内5市町村	観光に関する財源検討「奄美大島DMO財源検討委員会」（観光庁事業） ・行政の枠組みを越えた観光の取組（観光マーケティング等）を推進している地域連携DMO（一般社団法人あまみ大島観光物産連盟）の財源を検討し、5市町村間の合意形成を図る目的で開催。年4回の会議を開催し、有識者からのヒアリングや各市町村意見の課題抽出・検討、議論、宿泊事業者との意見交換会などを実施した。			→				
			徳之島	徳之島町	観光活性化に向けた観光地整備事業 ・受け入れ態勢充実に向けて「徳之島町観光施設整備事業基本計画」を2017年度事業で策定、国・県等の補助事業を申請し、年次的に観光施設を整備する。			→				
今後5年間に向けた提言	良好な景観を保全するための担保措置として景観条例や景観計画を策定するほか、果樹やサトウキビ畑等の農業景観や浜下り等の行事も行われる海浜景観を保護するため、開発行為の制限や許可の厳格化を検討する。また、ゴミのリサイクル率向上を図るほか、フードロス無くす取組やビーチクリーンなどのボランティア活動にインセンティブを与える仕組みについて検討する。さらに、適正な利用が図られているかについてのモニタリングを行う。											

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施					
						2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	それ以 降	
III	宿泊施設 (地域資源 を生かした 民泊の取組 を含む)、 二次交通、 トイレ、駐 車場の整備	5. 宿泊施設不足への対応（民泊の促進を含む）									
		目 標	今後国内外からの観光客数増加が見込まれることを踏まえ、観光客の利便性・快適性に配慮した宿泊施設の充実等の受入体制を整備する。								
		今後5年間で到達すべき水準	奄美ならではの魅力を体験できる民泊の促進を含め、宿泊施設の充実を図るとともに、観光客の利便性・快適性の観点から宿泊施設の空き部屋情報のウェブサイトを構築する。								
		現在の取組状況	奄美大島	鹿児島県	奄美大島宿泊対策連絡協議会 ・今後増加する観光客の満足度向上やリピーターの確保を図るため、行政と民間が一体となって、地域資源やコミュニティの力を最大限に活用する方策や宿泊対策等を協議する。	→					
			龍郷町		龍郷町環境文化型体験・交流事業（民泊を核とした奄美らしさ体験促進事業） <奄振交付金> ・秋名・幾里集落において、両集落の民家を活用した民泊などの地域住民主体の観光事業活動を支援する。【目標 秋名・幾里地区への年間延べ宿泊客数（令和5年度：500人）】	→					
今後5年間にに向けた提言	<p>宿泊の実態を把握するため宿泊客層の調査を実施しつつ、既存の宿泊施設を効率的に利用できるようOTA（オンライン専門旅行業者）やAPIと連携して宿泊施設の空き部屋情報を確認できる仕組みを構築する。一方で、新しい宿泊コンテンツとして、自然を体験できるグランピングなどを検討する。このほか、民泊事業者を集めた団体を組織し、民泊のサービス品質を確保する。</p> <p>（API：プラットフォーム側の汎用性の高い機能を外部から手軽に利用できるように提供する仕組み）</p>										

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施					
						2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	それ以 降	
III	宿泊施設 (地域資源 を生かした 民泊の取組 を含む)、 二次交通、 トイレ、駐 車場の整備	6. 主要観光施設におけるトイレ、駐車場の整備									
		目 標	主要観光施設において観光客の利便性・快適性を向上するため、公衆トイレや駐車場を整備する。								
		今後5年間で到達すべき水準	主要観光施設において休憩展望等のための駐車場やトイレ等の整備を進め、国内外の観光客が快適に利用できる環境の確保を目指す。								
		現在の取組状況	奄美大島	大和村	宮古崎バイオトイレ整備事業 ・トイレ整備を行うことで観光利便性の向上を図る。	→					
				龍郷町	奄美自然観察の森整備事業<奄振交付金> ・観光レクリエーション施設等の園地整備(駐車場整備)等を実施し、観光客の周遊を図る。【目標 奄美自然観察の森年間来園者数(令和3年度:20,000人)】	→	→				
			徳之島	天城町	大和城観光地連携整備事業<奄振交付金> ・見晴らしの良い絶景ポイントを整備(駐車場等)し、観光客等の利便性向上を図る。	→					
沖永良部島	知名町		魅力ある観光地づくり事業 ・観光地づくりとして、石積みや観光看板・道標を整備するほか、トイレや駐車場の整備を実施している。	→							
今後5年間に向けた提言	外国人観光客対応の観点から、観光地全てのトイレを洋式化する。また、供給過多にならないよう柔軟性をもって対応できる施設規模を検討した上で整備を進めるほか、地域ボランティア等を活用し、継続可能な維持管理体制を構築する。										

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施						
						2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	それ以 降		
III	宿泊施設 (地域資源 を生かした 民泊の取組 を含む)、 二次交通、 トイレ、駐 車場の整備	7. 二次交通の整備、利便性の向上										
		目 標	観光客の利便性向上のため、分かりやすい二次交通の情報提供を充実する。また、公共交通機関の不足している地域において小規模交通サービスの提供を検討する。									
		今後5年間で到達すべき水準	観光案内所やICTによる二次交通の情報提供の充実を図るとともに、目的地までの案内標識の整備を進める。また、公共交通機関の不足している地域においてデマンドバス・タクシーやシェアライドの導入を検討する。									
		現在の取組状況	奄美大島	あまみ大島 観光物産連 盟	奄美空港観光情報拠点施設活用事業 ・観光客への施設・交通等の情報案内、レンタサイクルの貸出を行う。			→				
			与論島	ヨロン島観 光協会	シェアライドの導入 ・夏期における地元交通機関の営業時間外にシェアライド(CREW)を運行する。			→				
今後5年間にに向けた提言	利用者の利便性を向上するため、主要観光地までのアクセス情報として、GTFS(標準的なバス情報フォーマット)などを活用するほか、ICT以外の手段として、紙媒体の情報発信やガイド付き定期観光バスの運行を検討する。また、新しい二次交通の整備として、パークアンドライド(無人電動カート)や自動運転、低炭素モビリティの利用について、検討を進める。											

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施					
						2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	それ以 降	
III	宿泊施設 (地域資源 を生かした 民泊の取組 を含む)、 二次交通、 トイレ、駐 車場の整備	8. 人手不足への対応									
		目 標	観光関連産業における人材不足の解消を図る。								
		今後5年間で到達すべき水準 等)	観光関連産業において質・量ともに必要な人材を確保するための支援の充実を図る。(例：大都市圏での仕事マッチングイベントに対する支援等)								
		現在の取組状況	群島	民間	ジョブセンバ事業 ・大都市圏において奄美への移住を検討している人々向けに仕事マッチングイベントを開催する。						
	今後5年間に向けた提言	人材不足対応として、繁忙期における他地域との人材シェアや、ルームクリーニングなどの専門業者との提携等を検討する。また、地域の若者がインターンシップ等により観光関連産業に対する認識を深める機会の充実、教育研修や先進ホテルでの交換教育により人材育成を図る。									


番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施						
						2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	それ以 降		
III	宿泊施設 (地域資源 を生かした 民泊の取組 を含む)、 二次交通、 トイレ、駐 車場の整備	9. クルーズ船受入れ体制の整備										
		目 標	クルーズ船が入港した際の観光地とのアクセス向上や、市街地での案内、買い物・飲食等の利便性向上を図ることで、クルーズ客の満足度向上及び寄港船の増加を図る。									
		今後5年間で到達すべき水準	クルーズ船客をカバーするための2次交通の確保、案内等の多言語対応、飲食店等間の連携体制を構築する。									
		現在の取組状況	奄美大島	鹿児島県	国際クルーズ船誘致促進事業 ・国際クルーズ船寄港の増加やツアーの高質化に向けたプロモーション等を戦略的・一体的に展開する。現地セールス活動、船会社とのタイアップ（招請等）、クルーズ船受入れ体制の整備を行う。							
		今後5年間に向けた提言	クルーズ客が入港前に観光情報等を得られるよう、船内誌を設置するほか、飲食店における多言語メニューの促進、商店街における地元特産品や食事を楽しむマルシェの開催、wifi環境の改善等受入れ体制の整備を図る。2次交通については、需要を見極めながら体制を構築する。また、港が賑わい拠点となるような、島嶼地域らしい都市基盤整備による魅力ある地域づくりを推進する。さらに、市場調査や先進地調査を実施してオーバーツーリズムに配慮するとともに、感染症対策にも留意する。									

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施						
						2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	それ以 降		
IV	地場産業等との連携による魅力的な観光コンテンツの開発	10. あまみシマ博覧会などの観光体験プログラムの充実（雨天時の観光メニューの開発を含む）										
		目標	豊かな地域資源を有効に活用した体験プロジェクトの充実を図りながら、奄美群島ならではの滞在型・着地型観光プログラムづくりを促進する。また、雨天時には自然や景観を活用した屋外でのアクティビティが困難となることから、代替メニューの開発・情報発信を行う。									
		今後5年間で到達すべき水準	観光体験プログラムや自然体験ツアー、移住体験ツアーをはじめ、方言・島唄や食文化、特産品、伝統芸能等も活用したコンテンツを充実させる。また、雨天でも楽しめる屋内での観光メニューの開発を進めるとともに、こうした情報を観光客に提供するための体制を構築する。									
		現在の取組状況	群島	鹿児島県	世界自然遺産 奄美トレイルの推進 ・奄美群島固有の自然と文化への理解を促進し、島から島へと人を誘導し、群島全体の地域経済や産業の振興に資する。令和3年度までに全線開通予定。							
			奄美大島	大和村	大和村まるごと体験事業<奄振交付金> ・集落をフィールドとした島暮らし体験や島人との交流を軸とした取組に対し支援を実施。【目標 受入人数（令和5年度：384人）】							
					観光ガイド（エコガイド・集落歩き案内人・通訳案内士）人材育成事業 ・NPO法人TAMASUが始めた「集落案内」等の取組を支援する。							
			喜界島	喜界町	奄美・トカラ連携喜界馬復活・活用プロジェクト<奄振交付金> ・十島村と連携し喜界馬を復活させ、観光や郷土教育での活用を推進し、地域活性化を図る。【目標 ①郷土教育学習の開催（令和5年度：5回）、②喜界島への年間入込客数（令和5年度：70,000人）】							
					世界ジオパークに向けた奄美群島連携事業<奄振交付金> ・喜界島サンゴ礁科学研究所と連携し、ジオパーク認定に向けた取組を実施。【目標 ①ジオガイド育成数（令和5年度：35人）②講演会の受講者数（令和5年度：450人）】							
		奄美大島	宇検村	宇検村体験観光多目的交流施設整備事業 ・幅広い屋内外体験活動プログラムの構築により滞在型の観光客を誘致、宿泊施設の稼働率の増加を図る。主に、体験観光の案内を行う。								
		今後5年間に向けた提言	コンテンツの作成にあたっては、目的を明確にした上で、SDGsを意識した持続可能な観光の考え方を前提とする。方言等を活用した奄美らしさを体感できるようなプログラムや、雨天時を想定してAR・VRの技術を活用したプランも用意し、一定時間過ごすことができるコンテンツや要素を取り入れ、拠点を分散させて回遊性を高める工夫をする。また、あまみシマ博覧会のプログラムをWeb上で購入・決済できるような仕組みを検討する。さらに、奄美の魅力は「人」であることを意識し、魅力的な人に焦点をあてたプログラムにするといった視点にも留意し、人材育成を図る。									

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施						
						2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	それ以 降		
IV	地場産業等との連携による魅力的な観光コンテンツの開発	1 1. 観光と連携した農業等基幹産業の育成										
		目 標	観光産業と連携した農林水産業の体験・交流を推進する。									
		今後5年間で到達すべき水準	農産物直売所、体験施設、農家民宿などを活用したグリーン・ツーリズムの充実を図るとともに、農山漁村滞在型観光をビジネスとして実施できる「農泊」の受入体制を構築する。									
		現在の取組状況	奄美大島 徳之島	大和村、瀬戸内町、徳之島町	農泊の推進 ・農業体験などを活用した体験プログラムを開発するとともに、宿泊としては民泊の開業を後押しするほか、地元の民宿と提携する。また、地元食材を使った商品開発を進め、食・泊・体験を連携した観光振興を推進する。							
			奄美大島	龍郷町	龍郷町環境文化型体験・交流事業<奄振交付金> ・秋名・幾里集落において、両集落ならではの体験・交流観光事業として、民家を活用した民泊などの地域住民主体の観光事業活動を支援するほか、地元食材を調理した郷土料理を提供するための飲食施設を整備するなど、集落全体を体験・交流できる仕組み作りを行う。【目標 秋名・幾里地区への年間延べ宿泊数（令和5年度：500人）】							
			沖永良部島	おきのえらぶ島観光協会	おきのえらぶ島産業クラスター創出拠点整備事業 ・地域住民、島出身者や観光客等との交流機会を戦略的に作り出し、沖永良部発の新産業の創出・既存産業の高付加価値化につなげることが目的で、沖永良部島産業クラスター創出拠点の管理運営をし、観光振興事業費を創り出す。 花農家プチ体験ツアー							
				奄美群島観光物産協会	丸の内朝大学 ・平成元年度ぐーんと奄美事業で、丸の内朝大学沖永良部農業体験コースとし、3回の東京での早朝授業（1回は夕刻の授業）と沖永良部での2泊3日のフィールドワークを実施した。							
今後5年間に向けた提言	地域の小規模農家が栽培する地元農産品を活用する仕組み（発注・集荷システム等）を検討するほか、漁協の直営レストランなど、奄美の魚や地場産食材を味わえる施設を整備する。その際、サービスの均一化にも留意する。また、奄美群島国立公園の指定地域の7割は渚（海域）であることから、この特性を活かして渚泊の促進を図る。											

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施						
						2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	それ以 降		
IV	地場産業等との連携による魅力的な観光コンテンツの開発	12. 従来型の観光コンテンツの強化（大島紬、黒糖焼酎など地域特性を生かした地場産業との連携、食材調達や土産品生産における地元産品使用の促進）										
		目標	大島紬や黒糖焼酎などの地域特性を生かした地場産業と連携して、奄美らしい観光コンテンツの強化を図るとともに、食材や土産品等における地元産品使用の割合を高めることで観光を通じた地域経済循環をつくり出す。									
		今後5年間で到達すべき水準	観光コンテンツの強化に当たっては、自然体験に加えて、地場産業との連携による地域資源を生かしたツーリズムの磨き上げに取り組む。また、可能な限り地域内での地産地消を進めるため、消費者のニーズを把握しつつ、量と質をそろえることができる生産者を地域内で確保する仕組みをつくる。									
		現在の取組状況	奄美大島	奄美市	本場奄美大島産地再生事業 ・在庫アクティブ事業、ディスプレイ事業、販路開拓事業を実施する。			→				
			喜界島	喜界町	ファームステイ ・村おこしNPO法人ECOFFや島キャン等の継続的な受け入れをし、学生やインターンの農業体験等の受入体制の拡充し、農家民泊等の推進を図る。			→				
徳之島	天城町		天城町マリンスポーツ拠点整備事業 ・海洋性レジャー施設の充実、ウォータースライダーやプール周辺施設、遊戯施設等の整備。【目標 徳之島への入込客数増加（5年度：132,000人）】			→						
今後5年間にに向けた提言	ガイドブックや御朱（酒）印帳の作成等の工夫を凝らしながら黒糖焼酎蔵巡りを促進するとともに、群島内産黒砂糖や黒糖焼酎のラボ開設を支援する。また、地元商品の販売促進として、大島紬、芭蕉布などの魅力的なデザインやそらまめ醤油などの話題性のある新商品を開発するほか、Web上で購入できる仕組みの構築、大都市や近隣地域に出荷するなどの条件の違いに応じた販売戦略を検討する。更に伝統文化（産業）を承継できる人材の確保に努め、地場産業の稼ぐ力を積極的にPRする。											

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施					
						2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	それ以 降	
IV	地場産業等との連携による魅力的な観光コンテンツの開発	13. まちづくりの観点からの人材育成									
		目 標	地域をつくるまちづくりという観点から奄美らしさや奄美の特性を生かした環境の整備や人材の育成を行う。特に景観の整備においては、観光の視点を念頭においた人材育成を進める。								
		今後5年間で到達すべき水準	奄美らしい観光振興のあり方を議論し整理した上で、まちづくりと人材育成を共に実施できる仕組みを作る。								
		現在の取組状況	奄美大島	宇検村	宇検村観光推進連絡会 ・ 質の高い環境に調和した観光地化を根差す啓発活動、飲食関係売上増と宿泊施設稼働率の向上、ガイド業参入希望者の発掘及び適正な事業者へ誘導を図る。	→					
				瀬戸内町	世界自然遺産登録推進事業 ・ 「世界自然遺産登録」に向けた様々な取組を行う。子ども世界自然遺産博士講座を開催（年8回）、世界自然遺産せとうち町推進委員会の開催（年2回）、広報誌・ラジオ等による情報発信、気運の醸成、自然保護パトロール（年間）及び希少野生動植物夜間パトロールの実施（9月・3月）、外来種パトロール及び駆除・啓発を行う。	→					
			徳之島	徳之島町	観光活性化に向けた観光プロモーション事業（観光プロモーション及びガイド育成） ・ 地元子どもたちがエコツアーガイドとして職業体験。将来の職業選択の一つとなるよう目指す。	→					
	島案内人育成事業 ・ 各集落の自然、文化、歴史及び産業等を学ぶ講座を年6回実施する。			→							
今後5年間に向けた提言	奄美の自然・文化・歴史を学ぶオンライン学習コンテンツを作成するとともに、観光客と接する機会がある人材（宿泊、飲食業等）毎に簡単な要点をまとめ、周知する。また、各市町村で集落単位のまちづくりを進めつつ、モデルケースとなる取組を支援するとともに、将来の人材を確保する観点から、高校生離島留学を推進する。さらに、歴史に対する理解を深めるため、戦跡（砲台跡、震洋艇格納施設等）等の体験学習ツアーを企画する。										

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施								
						2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	それ以 降				
V	キャッシュレス対応	14. クレジットカード、デビットカード、QRコード支払対応店舗の増加												
		目 標	インバウンド対策や、ポイント還元により全国的に急速に普及しているキャッシュレスについて、奄美群島においても観光客が各島で宿泊、買い物、体験等で利用ができるよう普及を図る。											
		今後5年間で到達すべき水準	各島の主要な観光スポットにおける利用可能店舗の増加を目指す。											
		現在の取組状況	奄美大島	あまみ大島観光物産連盟	キャッシュレスの説明会の実施 ・総会において、会員に対してキャッシュレス化の説明会を開催した。									
				奄美市	奄美らしい観光スタイル構築事業<奄振交付金> ・キャッシュレス対応や多言語化などのインバウンド受入体制強化や奄美らしい民泊に関する調査等を実施。【目標 交流人口動態調査の結果における奄美大島観光の満足度（令和3年度：68%）】									
与論島	ヨロン島観光協会		ペイペイ導入の促進 ・与論島全体に、ペイペイを導入を促進しており、現在、事業者の7割程度に普及しつつある。店舗以外の場、財布を持たないビーチ、イベント等での利用が期待され、順調に消費が伸びている。											
今後5年間に向けた提言	様々なキャッシュレス業者に対応する受入体制を推進するとともに、その対応状況を公開する。また、モデル地区で複数の業者をそろえ、最適なキャッシュレス事業者の見極めを行う取組について検討する。													

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施							
						2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	それ以 降			
V	キャッシュレス対応	15. キャッシュレスの住民の利用促進											
		目 標	キャッシュレス推進は、観光客の利便性向上といった利点だけでなく、少子高齢化による人手不足への対応、IT・データ利活用による中小・小規模事業者の生産性向上や地域活性化といった課題の解決にも資することから、住民への定着を図る。										
		今後5年間で到達すべき水準	行政機関や公的施設における支払いへのキャッシュレス化の導入。										
		現在の取組状況	群島	奄美群島観光物産協会	・キャッシュレス化は、観光客よりも住民の利用をすすめることが重要である。 来年度、観光対応では、シマ博の電子決済化を進める。								
			奄美大島	奄美市	セミナーの開催 ・各種専門家、事業者を招いたセミナーの開催した。(2月、4月)								
			沖永良部	おきのえらぶ島観光協会	住民への個別説明 ・説明会は行わずに、個別に説明を行っている。(説明会は特になし)								
知名町	説明会の開催 ・住民対象にキャッシュレス利用説明会を開催している。(ペイペイアプリ実演指導)												
今後5年間に向けた提言	住民にキャッシュレスが浸透するよう、バスやプレミアム商品券のキャッシュレス化を図るほか、住民がキャッシュレス支払いをすることにより、インセンティブが得られる仕組みを構築することで、観光客への利用促進を図る。また、高齢者が無理なく使えるキャッシュレスの仕組みや店側の配慮、店舗スタッフの育成等を推進する。												

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施							
						2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	それ以 降			
VI	多言語化対応	16. 奄美群島通訳案内士の育成											
		目標	近年の奄美群島の認知度の拡大及び、大都市圏国際空港からの直行便就航による交流人口の多様化に対応した受入体制の構築を図るため、外国人観光客に奄美群島の魅力を正しく伝えられる奄美群島地域通訳案内士を育成する。										
		今後5年間で到達すべき水準	2023年度までに、英語・中国語・韓国語の通訳案内士186人を確保する。										
		現在の取組状況	群島	奄美群島広域事務組合	奄美群島通訳案内士育成事業<奄振交付金> ・外国人観光客に奄美群島の魅力を正しく伝えられる奄美群島地域通訳案内士（英語、中国語、韓国語）を育成する。【目標 増加する外国人観光客の受入を担う奄美群島地域通訳案内士研修の修了者数（令和5年度：186人）】								
今後5年間に向けた提言	通訳案内士の所得向上を図るため、コンテンツやツアー料金の下限目安を設定するほか、需要確保を図るため、電話相談窓口等のルーティンとなる業務を組み合わせて仕事を作る。また、幅広い人材確保を進めるため、移住定住希望者にも通訳案内士の資格や仕事を紹介する。さらに、通訳案内士の利用促進を図るための方策を検討する。												

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施							
						2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	それ以 降			
VI	多言語化対応	17. 外国語サポートサービスの充実											
		目標	インバウンド拡大のためには、外国語対応ができる人材の育成のほか、外国人が観光をしやすい環境づくりが必要である。環境整備を通じた訪問時・滞在時の利便性向上を図ることを目標とする。										
		今後5年間で到達すべき水準	外国人旅行者がストレスなく、快適に観光を満喫できる環境整備を行う。										
		現在の取組状況	群島	鹿児島県	外国人観光客受入体制整備事業 ・通訳ガイドの育成、外国人受入体制づくりのための講習会の開催、キャッシュレス決済の普及・啓発、ムスリム・フレンドリー受入体制整備、多言語コールセンター運営等を行う。			→					
			奄美大島	奄美産業活性化協議会	eラーニングの作成、実施 ・「外国人おもてなし大作戦in奄美」(Webコンテンツ)を制作し、利用を促進する。								
			徳之島	天城町	国立公園多言語解説等整備事業 ・奄美群島国立公園及び天城町内観光地8か所に、日本語・英文の看板設置。中国語(繁体字・簡体字)、韓国語は看板のQRコードから解説文を閲覧可としている。			→					
今後5年間に向けた提言	多言語対応として、宿泊・飲食・観光施設を優先して、ポイストラ(多言語翻訳アプリ)を活用する。また、人材育成のため「外国人おもてなし大作戦」の受講を促進し、利用範囲の拡大も併せて実施する。さらに、外国人が言語で困った際に対応できる電話相談の実施や、台風等自然災害時の対応、グルテンフリーやハラールへの対応などサービスの充実化を図る。												

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施					
						2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	それ以 降	
VII	広域連携	18. インバウンド受入のための沖縄等との航空・海路ネットワーク形成									
		目標	インバウンド客を広範囲で獲得するため、航空・航路の確保や、キャンペーン等の実施により、インバウンド客往来の環境を整える。								
		今後5年間で到達すべき水準	インバウンド客の集客拡大を図るための施策を実施し、年間を通じた安定的な入込客数を確保する。								
		現在の取組状況	群島	航路・航空 路運賃軽減 協議会	奄美群島交流需要喚起対策特別事業<奄振交付金> ・運賃等の軽減に係る試験的取組等を実施する。【目標 航路・航空路の対象路線（※）年間利用者数（令和5年度：450千人[航路]、151千人[航空路]）】 ※ 航路対象路線：鹿児島～沖縄航路 航空路対象路線：県外からの奄美直行便等						
					奄美・沖縄連携交流促進事業<奄振交付金> ・両地域の調和ある振興のために、移動コストを軽減し、交流を促進する。【目標 奄美・沖縄航路航空路線年間利用者数（令和5年度：64千人[航路]、78千人[航空路]）】						
海洋世界遺産ロード構築事業<奄振交付金> ・奄美・沖縄と屋久島間の周遊性を向上させるため、航路の運航費に対し助成する。【目標 鹿児島～奄美～沖縄航路における屋久島寄港便の年間利用者人数（令和5年度：1,800人）】											
今後5年間にに向けた提言	インバウンド客の航空ネットワーク形成のため、RAC便も国際線国内乗継割引対象にするよう働きかけを行うほか、那覇～与論～徳之島～奄美大島～屋久島～種子島～鹿児島でホッピングできるような立ち寄り便を実証する。また、海路ネットワークの形成として、ターゲット国を明確化し、海路と民泊・渚泊・伝泊利用をつなげる方策の検討と併せて海路利用を促進する。										

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施							
						2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	それ以 降			
VII	広域連携	19. 複数県にまたがる広域連携体制の構築（アイランドホッピングの推進含む）											
		目 標	九州本島や沖縄を含めた広域的な周遊ルートの形成に向けた複数県の連携体制を確立する。										
		今後5年間で到達すべき水準	複数県を巡るネットワークを確保した上で、九州本島や沖縄県を巡る旅行商品を開発する。										
		現在の取組状況	群島	奄美群島12市町村	奄美・やんばる広域圏交流推進協議会 ・つながりの深い奄美群島と沖縄北部の交流促進、毎年開催し、市町村で交互に開催している。和泊町（2017年）、名護市（2018年）、与論町（2019年）			→					
			沖永良部島	和泊町	北山文化圏ロード構築事業<奄振交付金> ・北山文化圏（今帰仁村）と観光協会を交えた広域的な連携・交流を促進。協議・検討及び地元デザイナー等を活用したプロモーション素材の制作を行う。 【目標 沖縄県から和泊町への年間入込客数（令和3年度：15,710人）】			→					
与論島	与論町		与論町・国頭村連携遺産ロード構築事業<奄振交付金> ・ヨロン島観光協会と北部地域で旅行商品の造成やプロモーション、国頭村と連携した広域観光イベントの開催等を実施し、沖縄本部港～与論～奄美各島の広域観光ルートを構築する。【目標 与論島への年間入込客数（令和5年度：90,000人）】			→							
今後5年間にに向けた提言	旅行商品の検討として、鹿児島港を拠点とした近海クルーズ商品化、長崎教会群・明治日本の産業革命遺産・屋久島・奄美・沖縄の世界遺産を巡る航空機・クルーズを用いたアイランドホッピングツアー、ストーリーやテーマ性のある周遊ルート（例：台湾まで視野に入れた「黒潮・モンスーンホッピング」等）の整備などを検討する。また、その検討に合わせ、地域ポイント（地域通貨）の付与や3ヶ月程度利用可能なフリーパスの導入を検討する。												